

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンまで増加し、30万トン台を維持しながら、平成9年は32万3千トン、平成10年は31万1千トンでした。しかし、平成11年には大きく減少し21万1千トンとなりました。

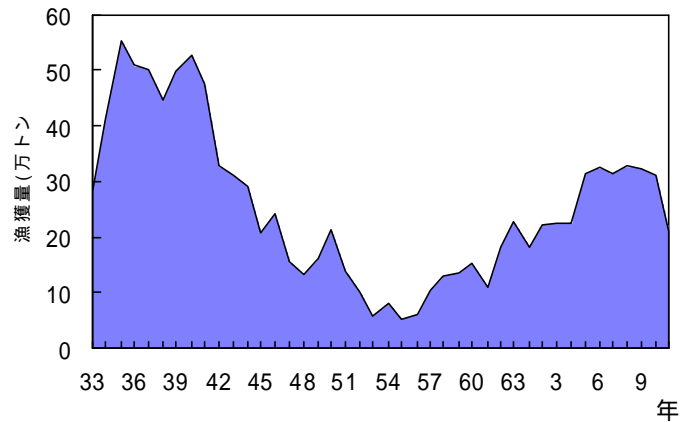


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成13年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕周辺(1～3月)、阿久根沖(1・2月)に、薩南海域では、開聞沖(1月)、宇治群島周辺(2月)、内之浦沖(3月)に漁場が形成されました。

4港計では、豆アジ(平成12年生まれ)主体に1,255トンの水揚げでした。1～3月期は、すべての月で前年を上回り、平年を下回りました。前年及び平年の244%及び58%でした。

平成12年生まれの加入群は、平成11年生まれ群より大きいと考えられます。

3. 平成13年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は豆アジ・小アジ(1歳魚・平成12年生まれ)で、来遊量は前年を上回り、平年を下回るでしょう。

(根 拠)

主漁獲対象となる平成12年生まれ群は、平成11年生まれ群より大きいと考えられます。隣接県の加入状況も本県海域同様です。

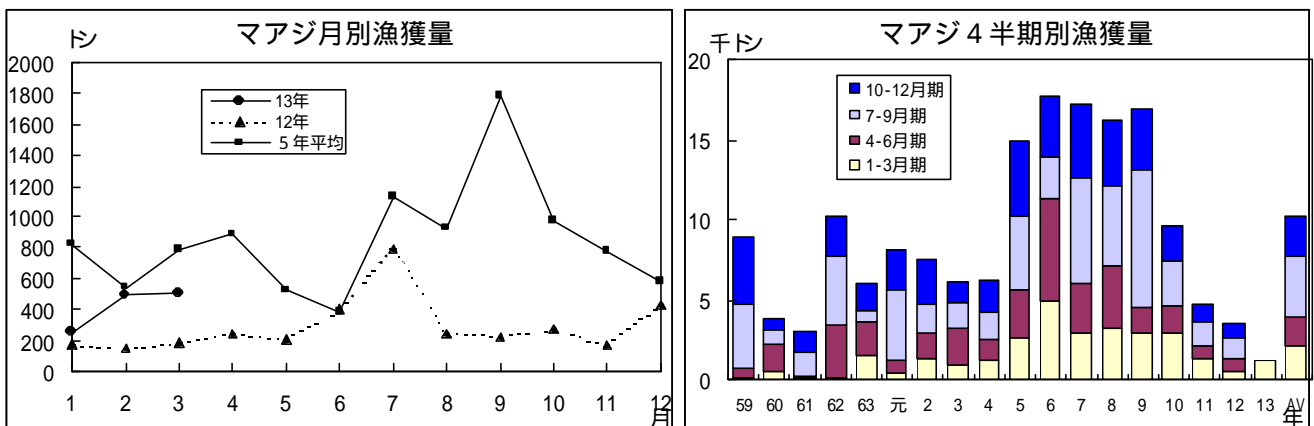


図 マアジ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8～12年)の平均値,平成13年3月は21日までの水揚量を使用。

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

サバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンを一ピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。その後は、ゴマサバの増加により大幅な漁獲量の減少は見られませんでした。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少し、平成3年には26万トンとなりました。その後、増加傾向に転じ平成9年は84万9千トンとなりましたが、再び減少傾向となり平成11年は38万2千トンでした。

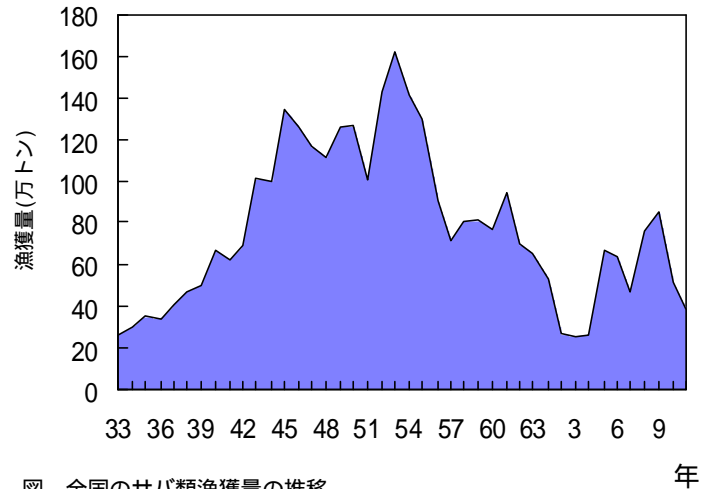


図 全国のサバ類漁獲量の推移

2. 平成13年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕周辺(1・2月)に、薩南海域では、湯瀬周辺(1月)、馬毛島周辺(2・3月)、種子島東沖(2・3月)等に漁場が形成されました。

4港計では、中ゴマサバ(平成11年生まれ)主体に3,782トンの水揚げがあり、2・3月は前年・平年を上回りました。前年及び平年の138%及び117%でした。

3. 平成13年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は中サバ(2歳魚・平成11年生まれ)で、来遊量は前年・平年を上回るでしょう。

(根拠)

前期の漁獲状況から、漁獲主体の平成11年生まれ群は、順調に推移しています。

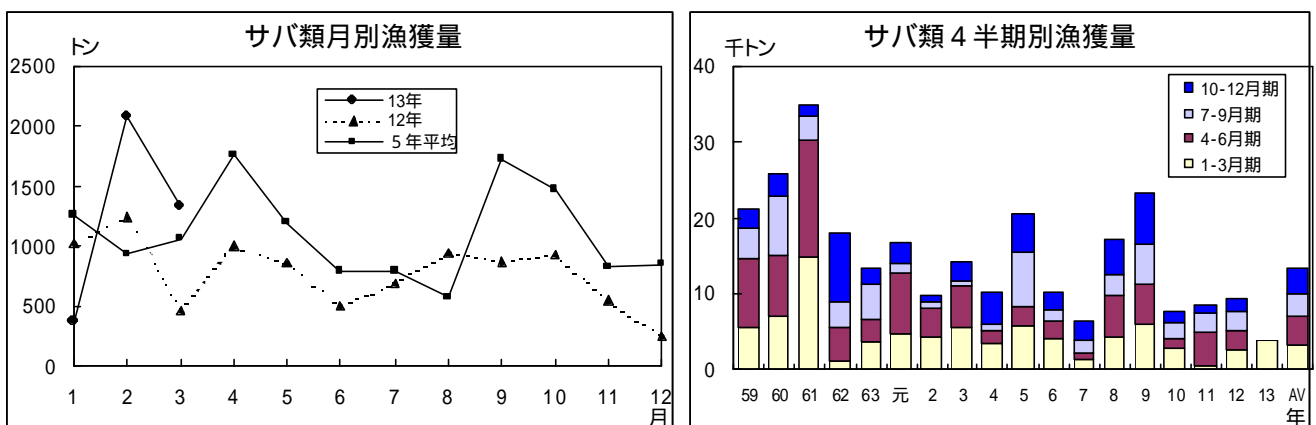


図 サバ類漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年(平成8～12年)の平均値、平成13年3月は21日までの水揚げ量を使用。

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。しかし、平成元年から三陸沖を中心に漁獲量が減少し始め、その後もマイワシの若齢魚の減少等により、全国的に漁獲量は減少を続け、平成7年には66万トンとなりました。平成9年は28万4千トン、平成10年は16万7千トンとなりました。平成11年には若干資源が回復し、35万1千トンとなりました。

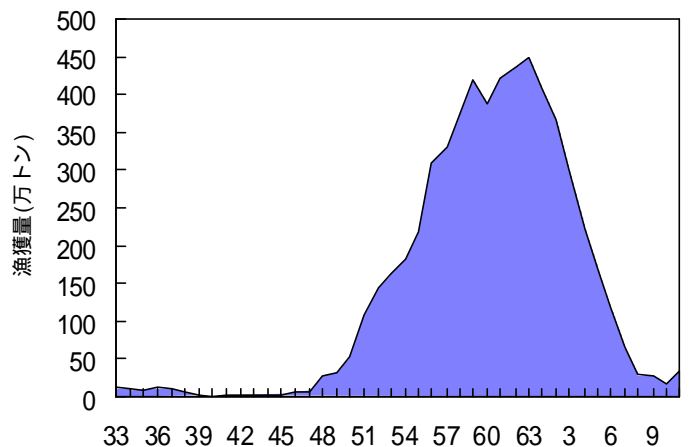


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

2. 平成13年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌周辺(1月)で、若干の漁獲がありました。

4港計では、3.9トンで前年及び平年の8%及び1%でした。

3. 平成13年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は小羽イワシ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は前年並みでしょう。

(根 拠)

マイワシの資源状態は低水準にあり、まとまった漁獲は見られないと考えられます。

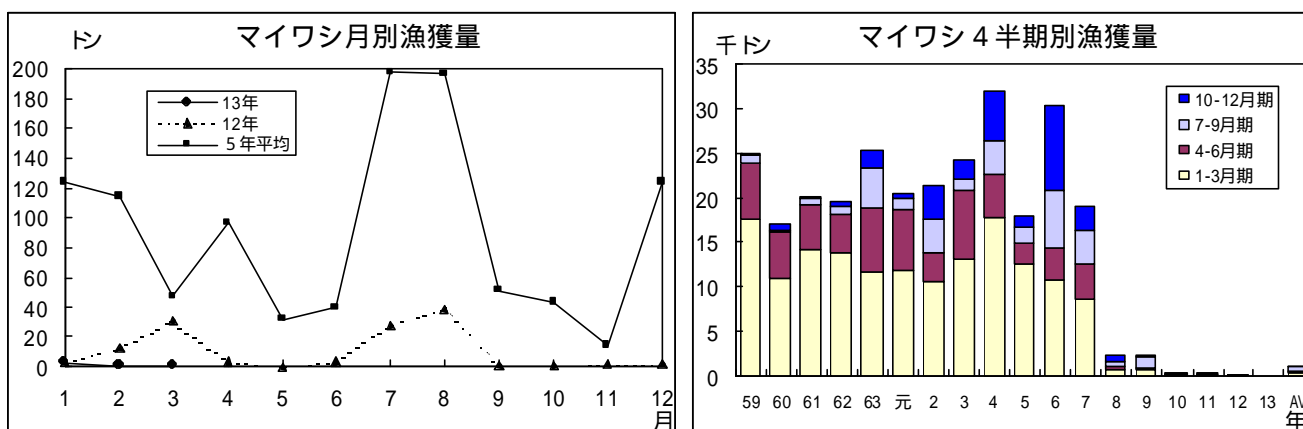


図 マイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年3月は21日までの水揚量を使用。

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代後半から40年代前半にかけて3万トン前後で推移していましたが、昭和46年から54年まで5万トン前後で推移しました。昭和55年以降、漁獲量は減少し昭和60年には3万トンとなりましたが、その後増減を繰り返しながら、増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりました。その後減少傾向に転じ、平成9年は5万5千トン、平成10年は4万8千トン、平成11年は2万9千トンでした。

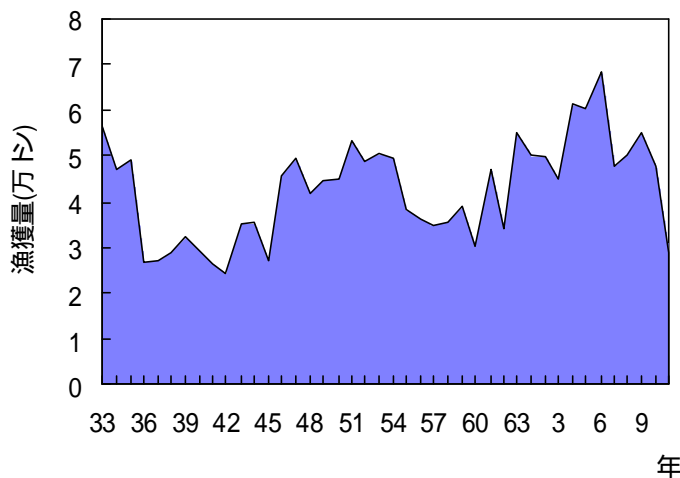


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 平成13年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甕周辺(1月)に、薩南海域では、宇治群島周辺(2・3月)等で漁獲がありました。

4港計では、83.6トンで、2・3月は低水準ながら前年を上回りました。前年及び平年の89%及び29%でした。

3. 平成13年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は小羽ウルメ(0歳魚・平成13年生まれ)で、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根 拠)

平成10年12月以降の漁獲状況は低調となっています。

前期の漁模様から親魚量も少なく、平成13年生まれ群の加入も少ないと考えられます。

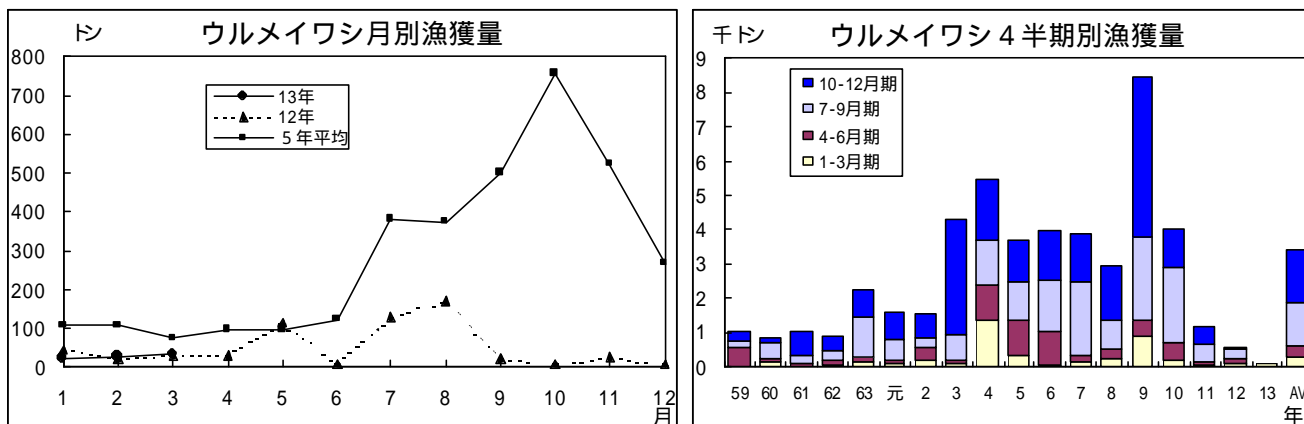


図 ウルメイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年3月は21日までの水揚量を使用。

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

カタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。昭和63年以降は大きく増減を繰り返し平成9年は23万3千トン、平成10年は47万トン、平成11年は過去最高の48万トンとなりました。

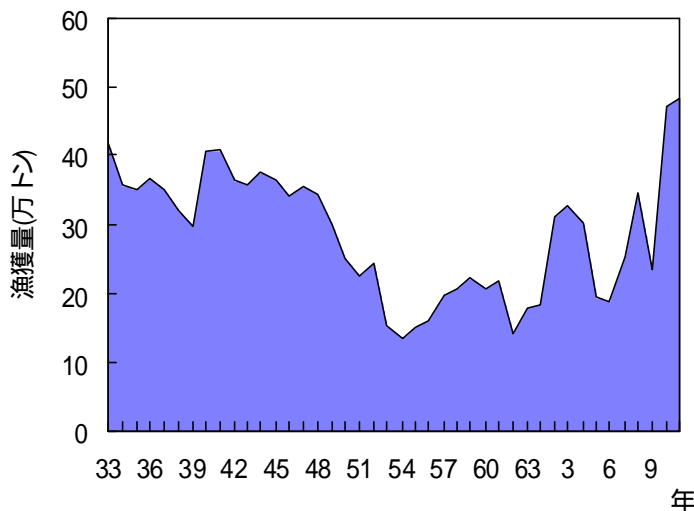


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成13年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域の阿久根沖(3月)，長島沖(3月)に漁獲がありました。

4港計では、5.8トンで前年及び平年の1%及び1%でした。1・2月は全く漁獲がありませんでした。

3. 平成13年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は小羽～中羽カタクチで、来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根 拠）

近年の漁獲の推移から、月により漁獲量のばらつきが大きく、減少傾向にあります。

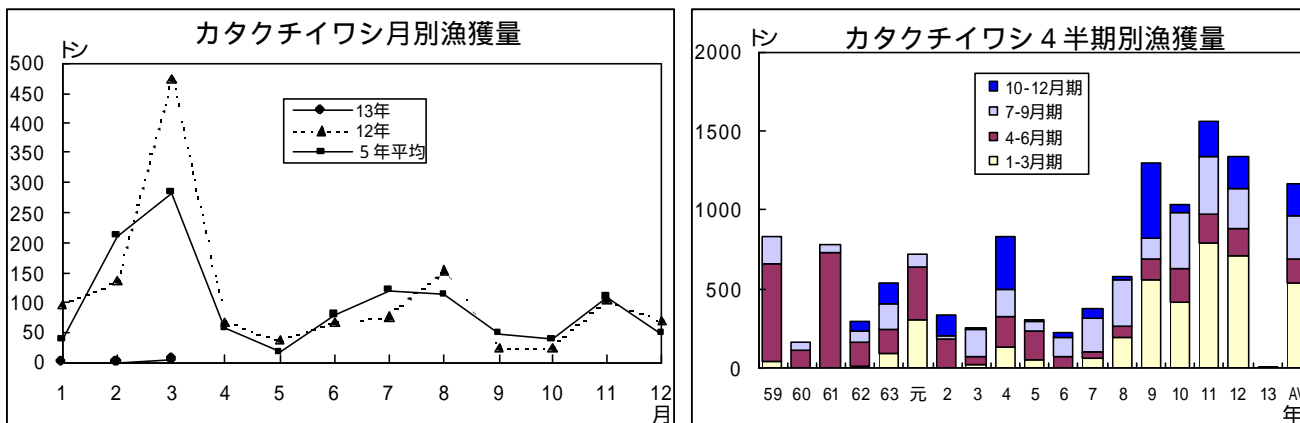


図 カタクチイワシ漁獲量変化(4港計)

平年値は過去5年（平成8～12年）の平均値，平成13年3月は21日までの水揚量を使用。